

超精密とメカトロメーション®を追求する

Seibu

**2025年3月期 第2四半期（中間期）
決算説明会**

西部電機株式会社

（東証スタンダード・福証 証券コード6144）

会社概要

(2024年9月30日現在)

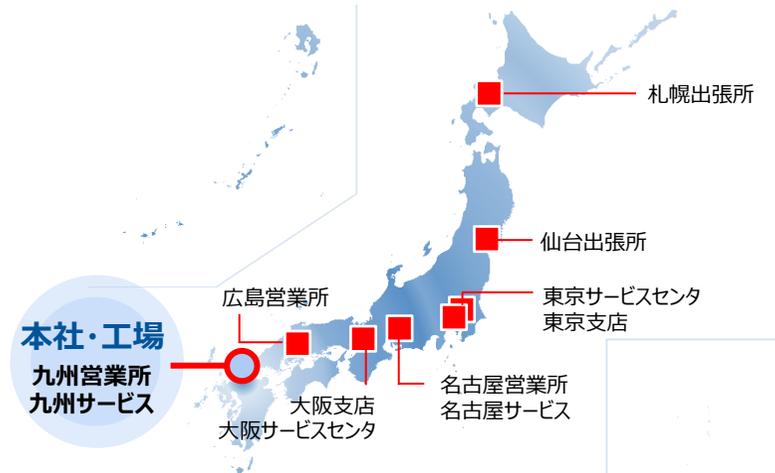
商号	西部電機株式会社 Seibu Electric & Machinery Co.,Ltd.
証券コード	6144
上場	東証 スタンダード市場 (2006年 東証2部上場) 福証 (1986年 上場)
本社	福岡県古賀市駅東3-3-1
創業	1927年1月
資本金	26億58百万円
発行済株数	15,160千株
時価総額	278億34百万円 (2024年11月29日現在)
売上高	319億45百万円 (2024年3月期: 連結)
従業員	649名 (連結) 593名 (単体)
グループ会社	西電興産株式会社、株式会社西部ハイテック、 西部ペイント株式会社、Seibu America Corporation
HPアドレス	https://www.seibudenki.co.jp

西部電機の歩み

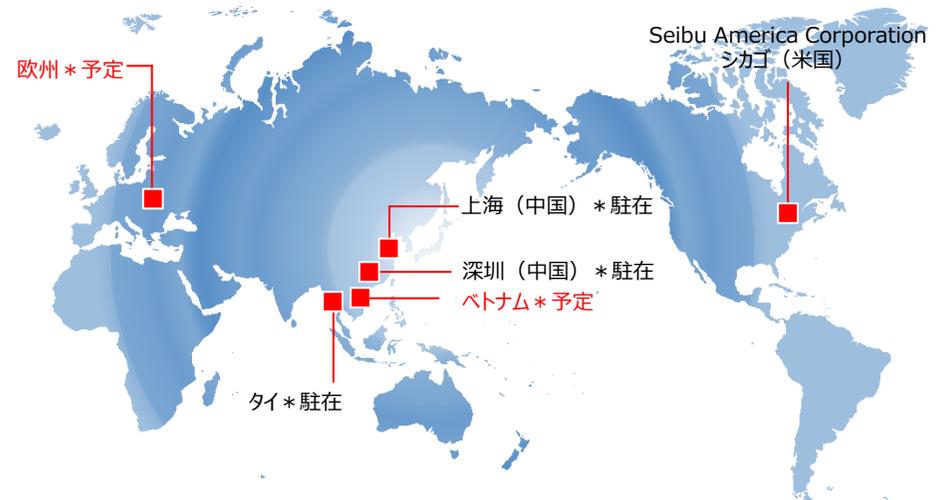
1927年に創業した西部電機 一つひとつの「軌跡」が未来を創造しています

- 1927年（昭和2） 東邦電力(現 九州電力(株))の電気機械工場であった東邦電機
工作所九州工場を引き継ぎ、西部電気工業所を創業
電気機械器具(変圧器・モータ・発電機)、電気計器の製造・修理
を開始
- 1939年（昭和14） 西部電機工業株式会社に改組（設立）
- 1945年（昭和20） 福岡県糟屋郡古賀町（現 福岡県古賀市）に移転
- 1954年（昭和29） バルブコントロール製造販売開始（産業機械事業スタート）
- 1959年（昭和34） 工作機械（旋盤）の製造販売開始（精密機械事業スタート）
- 1966年（昭和41） 立体自動倉庫第1号機完成（搬送機械事業スタート）
- 1972年（昭和47） 世界初のCNC方式ワイヤ放電加工機を開発
- 1986年（昭和61） 西部電機株式会社に社名変更 福岡証券取引所に上場
- 1991年（平成3） 事業部制導入
- 2006年（平成18） 東京証券取引所市場第二部に上場
- 2007年（平成19） 本社社屋、新工場竣工
- 2012年（平成24） 株式会社豊田自動織機と業務・資本提携締結
- 2018年（平成30） タイにてバルブコントロールのストック販売を開始
- 2024年（令和6） 米国に合弁会社「Seibu America Corporation」設立
- 2024年（令和6） ワイヤ放電加工機の需要増に伴い新精密工場兼事務所棟を竣工

国内拠点図



海外拠点図



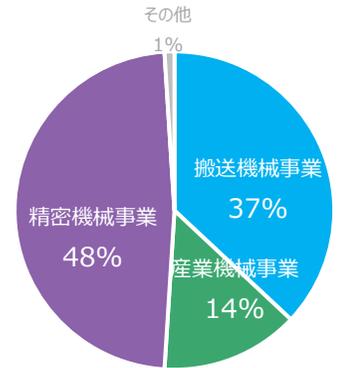
2027年（令和9） 創業100周年

Anniversary

西部電機は、搬送機械・産業機械・精密機械を主力に「超精密とメカトロメーション[®]」を追求する総合メカトロニクスメーカーです

基本構想から設計・製造・アフターサービスといったプロセスをワンストップで提供しています

事業セグメント別
売上高構成比（2024年度中間期）



事業	主力製品	特徴	価値提供領域	主な納入先
搬送機械事業	<ul style="list-style-type: none"> 立体自動倉庫 FMSシステム ケース自動ピッキングシステム 搬送・ハンドリングシステム ロボティクス・マテハン[®] 	コンパクトで経済的なシステムを構築できる当社独自の技術力と、ソフトウェアを組み合わせた「総合物流ソリューション」を提案	<p>省人化・省スペース化・省エネ（CO2削減）、生産性向上・IoT・DX化、トレーサビリティ・誤配防止</p> <p>物流システム 6軸ロボット</p>	<ul style="list-style-type: none"> 流通 電池・電機機器 運輸・倉庫・卸 機械 医薬・化学 食品
産業機械事業	<ul style="list-style-type: none"> バルブアクチュエータ ゲート駆動装置 バルブ・ゲート制御システム 	水・電気・ガス・石油などエネルギーを暮らしに導くため大切な役割を担うバルブアクチュエータとゲート駆動装置を提供	<p>省力化、省人化、省エネ化、環境保護、水害・洪水対策、省資源化、品質、コスト、納期及び保守・メンテナンス技術</p> <p>バルブアクチュエータ Semflex[®]シリーズ ゲート駆動装置 大型チェーン式</p>	<ul style="list-style-type: none"> 官庁関係（厚生労働省・国土交通省・防衛省・地方自治体） バルブ・ゲート 電機・重工・造船
精密機械事業	<ul style="list-style-type: none"> 超精密・高精度ワイヤ放電加工機 超精密ワイヤ放電加工機（油仕様） 高精度小形NC旋盤 自由形状内面研削盤 	ピッチ加工精度で定評のワイヤ放電加工機、小物精密部品加工に応えるNC旋盤、自由形状加工を可能とした切削加工機などを開発	<p>高精度部品の生産、人件費削減</p> <p>超精密ワイヤ放電加工機 高精度自由形状内面研削盤</p>	<ul style="list-style-type: none"> 精密金型 自動車・航空機 電子・電機 光学

AGENDA

01

2024年度 中間期決算・ 通期業績見通しのポイント

02

2024年度 中間期決算

- 中間連結実績
- 中間連結実績 受注高・売上高・営業利益推移
- 中間連結実績 セグメント別
- 中間連結実績 セグメント別 売上高・営業利益推移
- 営業利益増減要因
- 貸借対照表
- キャッシュフロー計算書

03

2024年度 通期業績見通し

- 通期連結業績見通し
- 通期連結業績 受注高・売上高・営業利益推移
- 通期連結業績見通し セグメント別
- 事業戦略 ① 搬送機械事業
- 事業戦略 ② 産業機械事業
- 事業戦略 ③ 精密機械事業
- 設備投資・研究開発費・減価償却費
- 株主還元

04

新中期経営計画 (Seibu Vision 2027) の概要

- Seibu Vision 2027の位置付け
- Seibu Vision 2027の目標

05

ご参考

- 新精密工場兼事務所棟竣工
- Seibu America Corporation 設立

2024年度 中間期決算・ 通期業績見通しのポイント



2024年度中間期決算・通期業績見通しのポイント

- 1 2024年度中間期の受注高は、精密機械事業における半導体市場向けや電気自動車関連、スマートフォン関連において当社製品に対する需要が引き続き高水準で推移し、17,351百万円と増加（前年同期比+10.8%）

売上高は、搬送機械事業において前年同期のような大口物件の成約がなく、14,296百万円と減少（前年同期比△1.2%）
- 2 2024年度中間期の損益は、原材料・資源価格の高騰等に伴う価格転嫁は進めたものの、急速なコスト上昇分を十分に賄いきれず、営業利益は、649百万円（前年同期比△40.6%）、経常利益は、684百万円（前年同期比△38.9%）、親会社株主に帰属する中間純利益は、452百万円（前年同期比△40.2%）と、いずれも前年同期比で減少
- 3 2024年度通期の売上高は、受注残高及び旺盛な需要環境により、期首予想33,250百万円（前期比+4.1%）から変更なし

営業利益は、2,950百万円（前期比+6.0%）、経常利益は、3,070百万円（前期比+6.7%）
親会社株主に帰属する当期純利益は、2,080百万円（前期比+5.2%）と期首予想から変更なし
- 4 2024年度から配当政策にDOE（連結純資産配当率）基準を採用
DOE4.0%を目安とすることで、2024年度配当は84円（配当性向61.0%）とする計画
2024年度中間配当は42円を決議

2024年度 中間期決算



中間連結実績

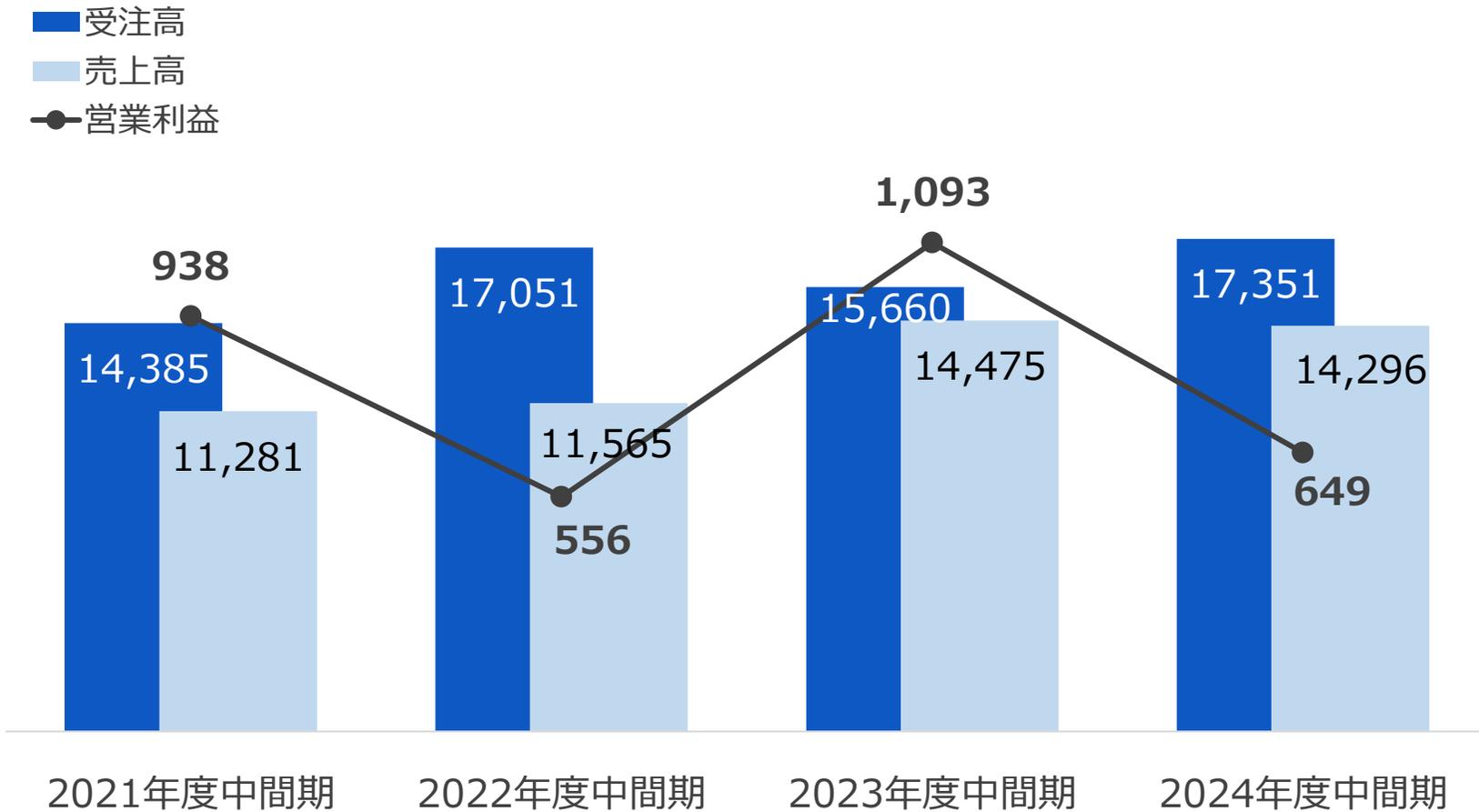
(単位：百万円)

	2023年度中間期	2024年度中間期	前年同期比／差		公表値 (2024年5月15日)	公表差
受注高	15,660	17,351	+10.8%	+1,691		
売上高	14,475	14,296	△1.2%	△178	14,100	+1.4%
売上総利益（率）	3,837 (26.5%)	3,616 (25.3%)	△5.8%	△220		
販売費及び一般管理費	2,743	2,967	+8.2%	+223		
営業利益（率）	1,093 (7.6%)	649 (4.5%)	△40.6%	△444	710 (5.0%)	△8.6%
経常利益（率）	1,119 (7.7%)	684 (4.8%)	△38.9%	△435	770 (5.5%)	△11.1%
親会社株主に帰属する 中間純利益（率）	756 (5.2%)	452 (3.2%)	△40.2%	△304	510 (3.6%)	△11.2%
EPS	50.13円	29.97円	△40.2%	△20.16円	33.77円	△11.3%

- **受注高** 半導体市場向けや電気自動車関連、スマートフォン関連における需要が引き続き高水準で推移し、主に精密機械事業が増加
- **売上高** 搬送機械事業において前中間期に計上された大口物件の売上がなく、前年同期比で若干減少したものの、期首の見込みどおりに推移
- **営業利益** 原材料・資源価格の高騰等に伴う価格転嫁は進めているが、中間期では急速なコスト上昇分を十分に賄いきれず減益

中間連結実績 受注高・売上高・営業利益推移

(単位：百万円)



中間連結実績 セグメント別

(単位：百万円)

	受注高	前年同期比	売上高	前年同期比	営業利益	前年同期比
搬送機械事業	6,679	+7.8%	5,283	△7.5%	403	△40.4%
産業機械事業	3,173	△0.7%	2,034	+2.7%	△9	-
精密機械事業	7,347	+20.1%	6,807	+2.9%	285	△42.0%
その他/消去・調整	151	+0.7%	171	△0.7%	△30	-
連結決算	17,351	+10.8%	14,296	△1.2%	649	△40.6%

■ 搬送機械事業

物流業界で2024年問題の課題解決や設備投資関連の需要増を背景に自動化や省人化ニーズが高まっている中、既存顧客からのリピート受注、自動倉庫や生産・物流分野等に、ピッキングシステムや新商品を使ったソリューションを提案するとともにサービス・メンテナンスにも注力

■ 産業機械事業

民間需要の掘り起こしやゲート分野を中心とした既存市場におけるシェアアップ、サービス・メンテナンス及び前年度好評を得た全国キャラバン活動による既存ゲート設備の電動化の提案に注力

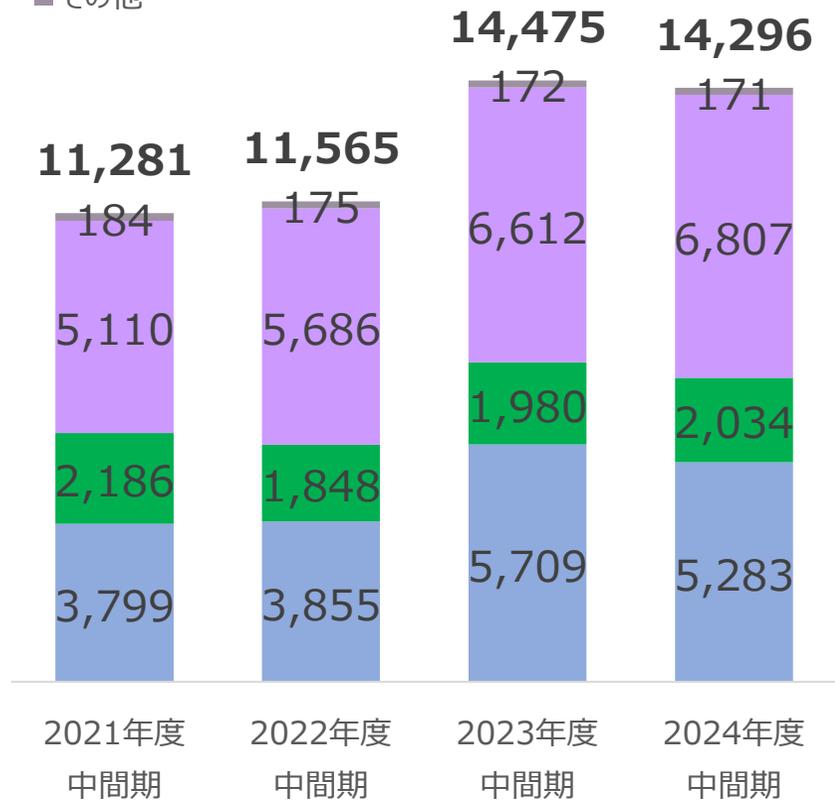
■ 精密機械事業

中国経済の低迷が懸念されたものの半導体市場向けや電気自動車関連、スマートフォン関連において当社製品に対する需要が引き続き高水準で推移

中間連結実績 セグメント別 売上高・営業利益推移

■ 売上高

- 搬送機械事業
- 産業機械事業
- 精密機械事業
- その他



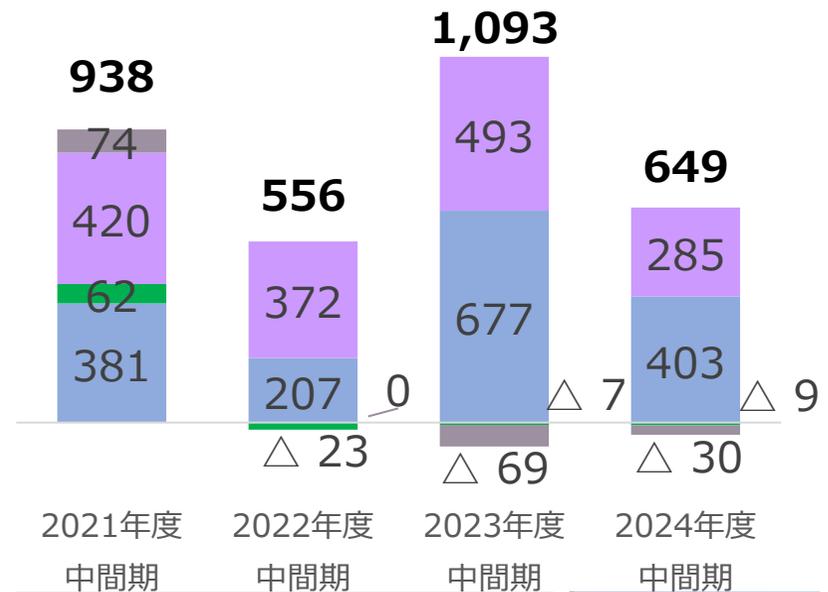
チャレンジ280

Seibu Vision
2027

■ 営業利益

(単位：百万円)

- 搬送機械事業
- 産業機械事業
- 精密機械事業
- その他



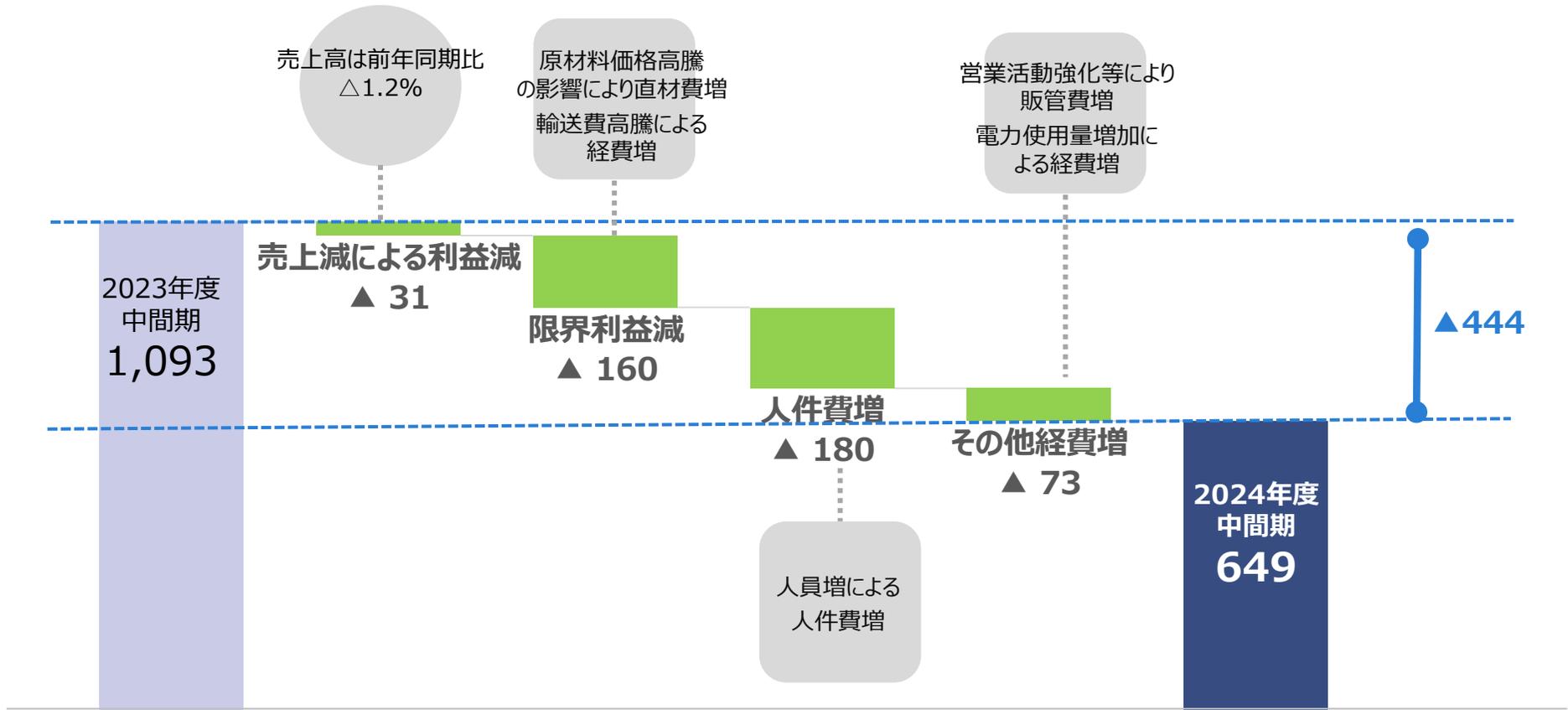
チャレンジ280

Seibu Vision
2027

営業利益増減要因

- 原材料や資源価格、輸送費高騰等に伴う価格転嫁は進めたものの、急速なコスト上昇分を十分に賄いきれず利益減少
- 海外展開や展示会出展等の営業活動強化や新工場建設に伴い、人件費を含む各種経費が増加

(単位：百万円)



貸借対照表

(単位：百万円)

	2023年度末	2024年度中間期末	前期末比
現金及び預金	11,936	8,832	△3,103
売掛債権・電子記録債権	10,644	8,087	△2,556
棚卸在庫	3,972	4,416	+443
有形固定資産	13,934	15,082	+1,147
投資有価証券	6,782	6,033	△748
その他資産	2,858	2,905	+46
資産 計	50,127	45,357	△4,770
支払債務・電子記録債務	10,013	6,177	△3,836
借入金	416	416	-
その他負債	9,149	8,739	△410
負債 計	19,579	15,332	△4,246
純資産	30,548	30,025	△523
自己資本比率	60.9%	66.2%	+5.3%
ネットキャッシュ	11,519	8,416	△3,103

キャッシュフロー計算書

(単位：百万円)

	2023年度中間期	2024年度中間期	前年同期比
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,794	△1,668	△4,463
投資活動によるキャッシュ・フロー	△327	△1,114	△787
財務活動によるキャッシュ・フロー	△319	△320	△0
フリーキャッシュ・フロー	2,467	△2,783	△5,250

※ 2024年度中間期は、支払方法の見直し及び前期末日休日の影響により、営業キャッシュフローが減少となっております

2024年度 通期業績見通し



通期連結業績見通し

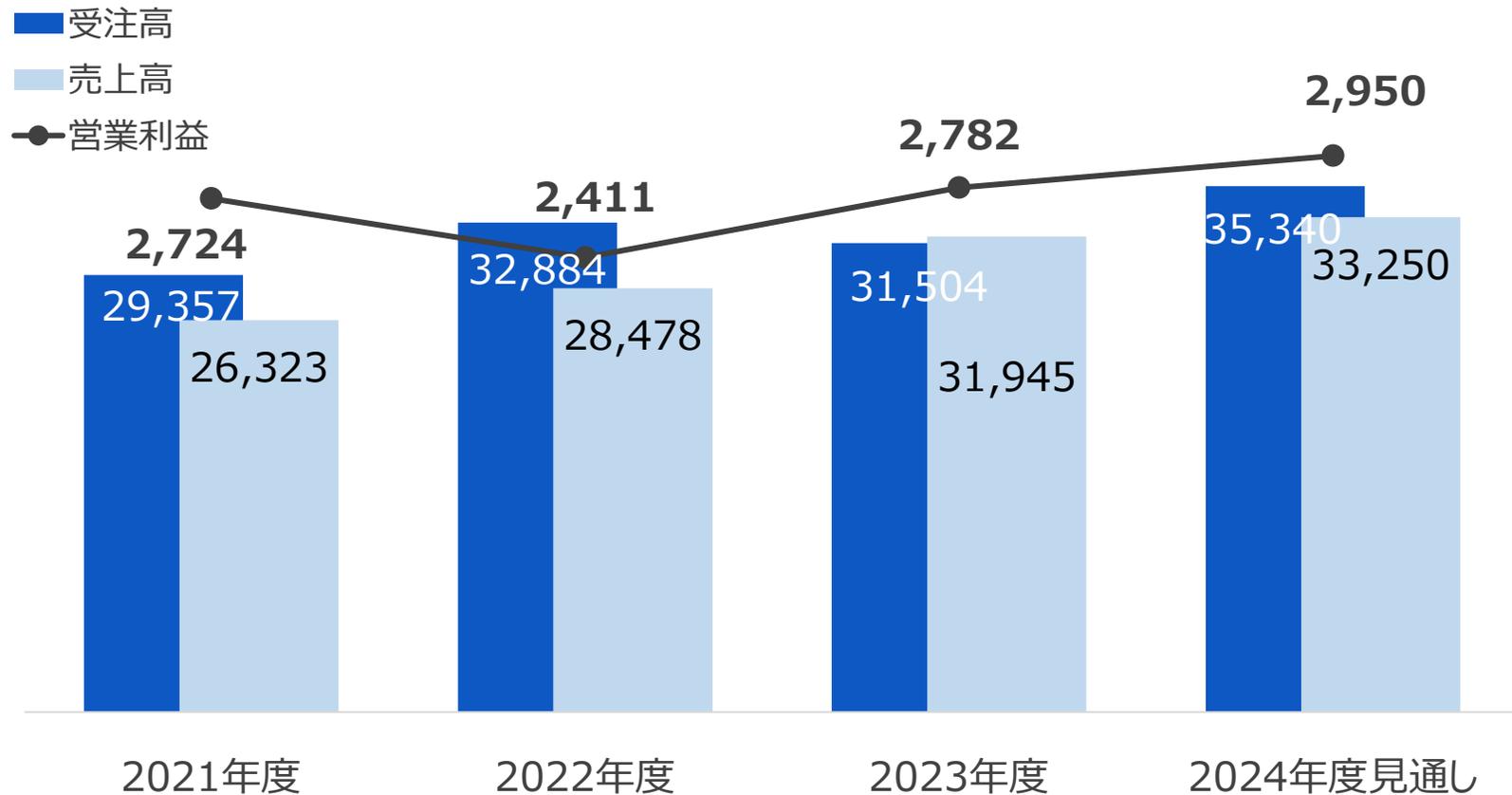
(単位：百万円)

	2024年度 見通し	2023年度 実績	前期比／差	
受注高	35,340	31,504	+12.2%	+3,836
売上高	33,250	31,945	+4.1%	+1,304
売上総利益（率）	9,410 (28.3%)	8,616 (27.0%)	+9.2%	+793
販売費及び一般管理費	6,460	5,833	+10.7%	+626
営業利益（率）	2,950 (8.9%)	2,782 (8.7%)	+6.0%	+167
経常利益（率）	3,070 (9.2%)	2,876 (9.0%)	+6.7%	+193
親会社株主に帰属する 当期純利益（率）	2,080 (6.3%)	1,977 (6.2%)	+5.2%	+102
EPS	137.74円	130.95円	-	+ 6.79円
ROE	6.7%	6.7%	-	+ 0.0P

- 先般の米国大統領選の影響に伴い、対中関税の引き上げによる業績の先行き不透明感はあるが、足許の製品需要は堅調
- 海外向けを中心とした精密機械、国土強靱化計画に対応した産業機械、今後さらに成長が期待される搬送機械の自動化需要を取り込む
- ソリューション提案やサービス・メンテナンスへの注力を通じ、売上高は過去最高となる332.5億円を見込む
- 例年通り下期に利益が偏重する傾向であり、各事業において価格転嫁を積極的に推進し、採算性の適正化が着実に進んでいるため、通期業績予想を据え置き

通期連結業績 受注高・売上高・営業利益推移

(単位：百万円)



通期連結業績見通し セグメント別

(単位：百万円)

		2024年度 見通し	2023年度 実績		前期比／差	
搬送機械事業	売上高	11,500	11,333		+1.5%	+166
	営業利益(率)	1,151 (10.0%)	1,105 (9.8%)		+4.1%	+45
産業機械事業	売上高	6,760	6,579		+2.7%	+180
	営業利益(率)	895 (13.2%)	852 (13.0%)		+5.0%	+42
精密機械事業	売上高	14,430	13,567		+6.4%	+862
	営業利益(率)	1,193 (8.3%)	908 (6.7%)		+31.3%	+284

■ 搬送機械事業

物流業界で2024年問題の課題解決や設備投資関連の需要増を背景に、自動化や省人化ニーズが高まり、新規引合い案件が活発

■ 産業機械事業

ターゲット市場への拡販や、既存ゲート設備の電動化案件に期待

■ 精密機械事業

受注・売上に関しては中国を中心に堅調に推移、半導体やEV関連、医療関連、航空機市場への需要にも期待

4月に設立した「Seibu America」については早急に軌道に乗せ、販売台数の確保に取り組む

事業戦略 ① 搬送機械事業

■ 顧客ニーズを的確に捉えた『生産性向上マテハンソリューション』を提供

基本戦略

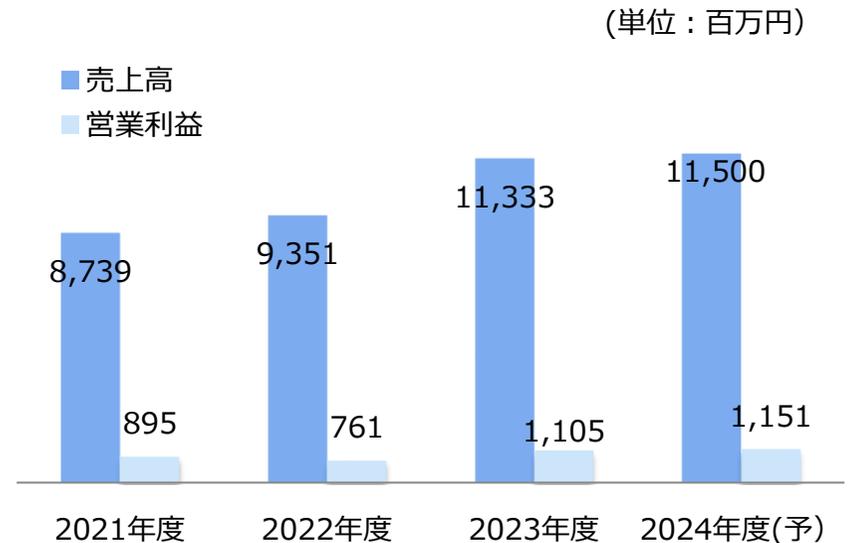
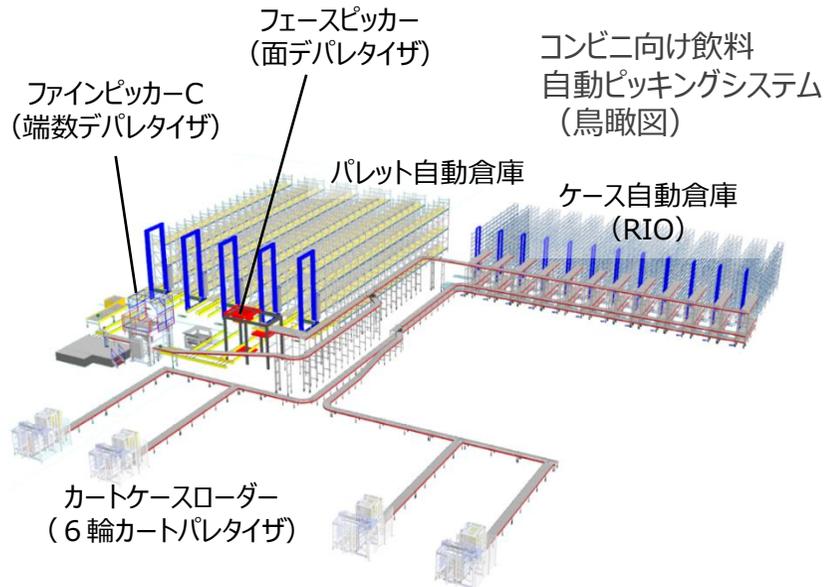
- ① 従来型自動倉庫の採算性向上とターゲット市場の開拓
(流通、電池・電機、半導体、機械、薬粧、食品)
- ② ロボティクス・マテハン®ソリューションの提案力強化で販売拡大
- ③ 提案型営業・サービスによる拡販と海外拠点の確立

当社の強み

- オンリーワン商品により、物流・倉庫管理分野で独自のソリューションを提供
- トータルシステムソリューション（提案開発～製造・工事～サービス）をワンストップで提供できる体制
- 多様な製品ラインナップ・特殊仕様対応への実績多数
- ロイヤルカスタマからのリピート多数

重点施策

- 従来型自動倉庫の採算性向上
- 拠点拡充、点検・整備提案徹底によるメンテナンスサービスの強化
- 商社、マシニングセンターメーカーと連携した海外営業・サービス体制の確立
- 成長市場（流通、電池・電機、機械、薬粧、食品業界）向けソリューションの提供
- 2024年問題解決商品の開発



事業戦略 ② 産業機械事業

『流体制御インフラの高度化』を実現する持続的イノベーションの提供

基本戦略

- ① 脱炭素化及び国土強靱化に対応した商品開発
- ② 保守・メンテナンス事業拡販のためストックビジネスを強化
- ③ 海外販売・生産拠点の確立

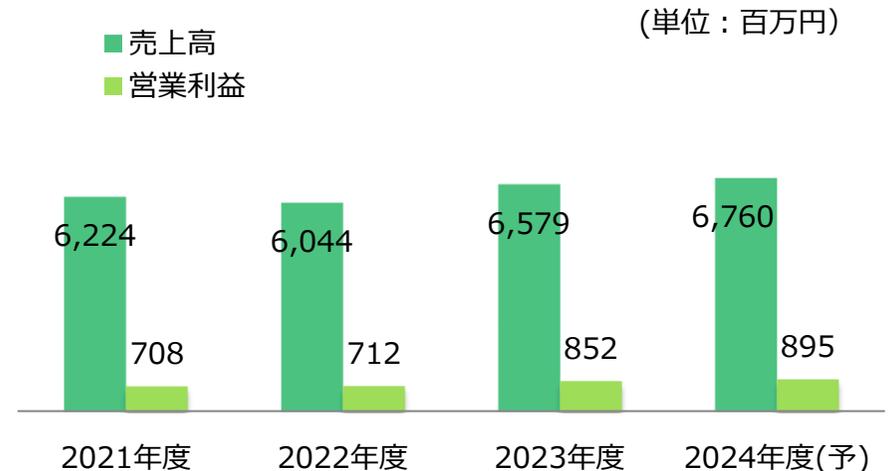
当社の強み

- バルブ・ゲートに関する深い情報網、バルブアクチュエータは国内シェアNo.1
- 増加傾向にある防衛省艦船向け納入実績
- 独立電源モジュール（ソーラー＋バッテリー）駆動技術の保有
- 多様な製品群の所有、システムおよびユニットの対応が可能
- 国内向け上下水道およびゲート市場で多くの納入実績を保有

重点施策

- 国内公共案件のシェア 80%維持
- 拠点拡充、他社製品の電動化工事受注等によるメンテナンスサービスの強化
- タイ販売・生産拠点の確立
- ASEAN市場への拡販
- 水素・アンモニア向け防爆製品の開発
- 優位性のある独立電源モジュール(ソーラー＋バッテリー)組込製品の展開

ソーラー発電による
簡易電動化型水門開閉装置



事業戦略 ③ 精密機械事業

■ ハイテク産業を支える『超精密加工ソリューション』を提供

基本戦略

- ① ターゲット地域へ販売戦略を展開し、中国一極集中からの脱却
- ② 成長分野向け新製品の開発、新システム開発のスピードアップ
- ③ 品質、保守、技術サポートの充実、販売店強化確立

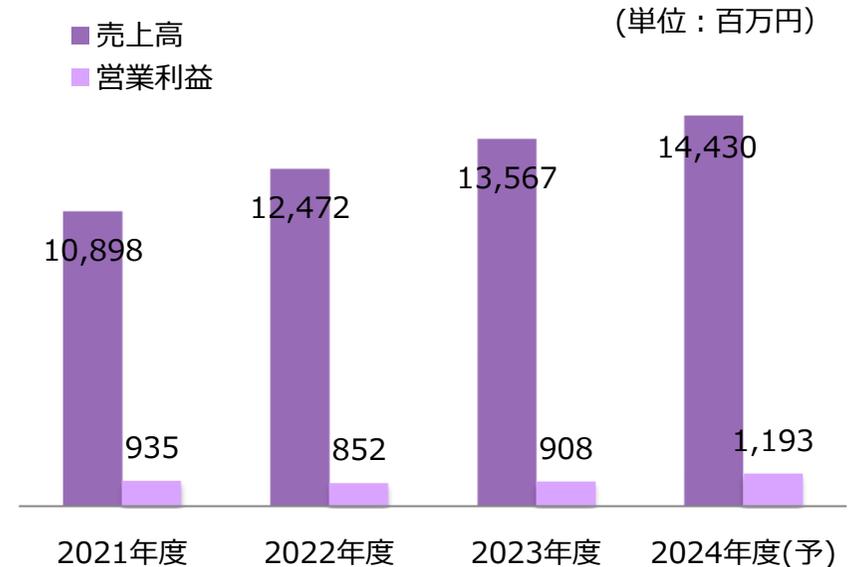
当社の強み

- ソフト開発の内製化
- 中華圏では、超精密加工技術と信頼性に高い評価
- 超精密加工技術と信頼性における市場優位性
- 顧客接点を外部委託せず、現場ニーズを製造・開発に連携
- 自動化、省人化ソリューションを展開するマテハン事業部との相互連携

重点施策

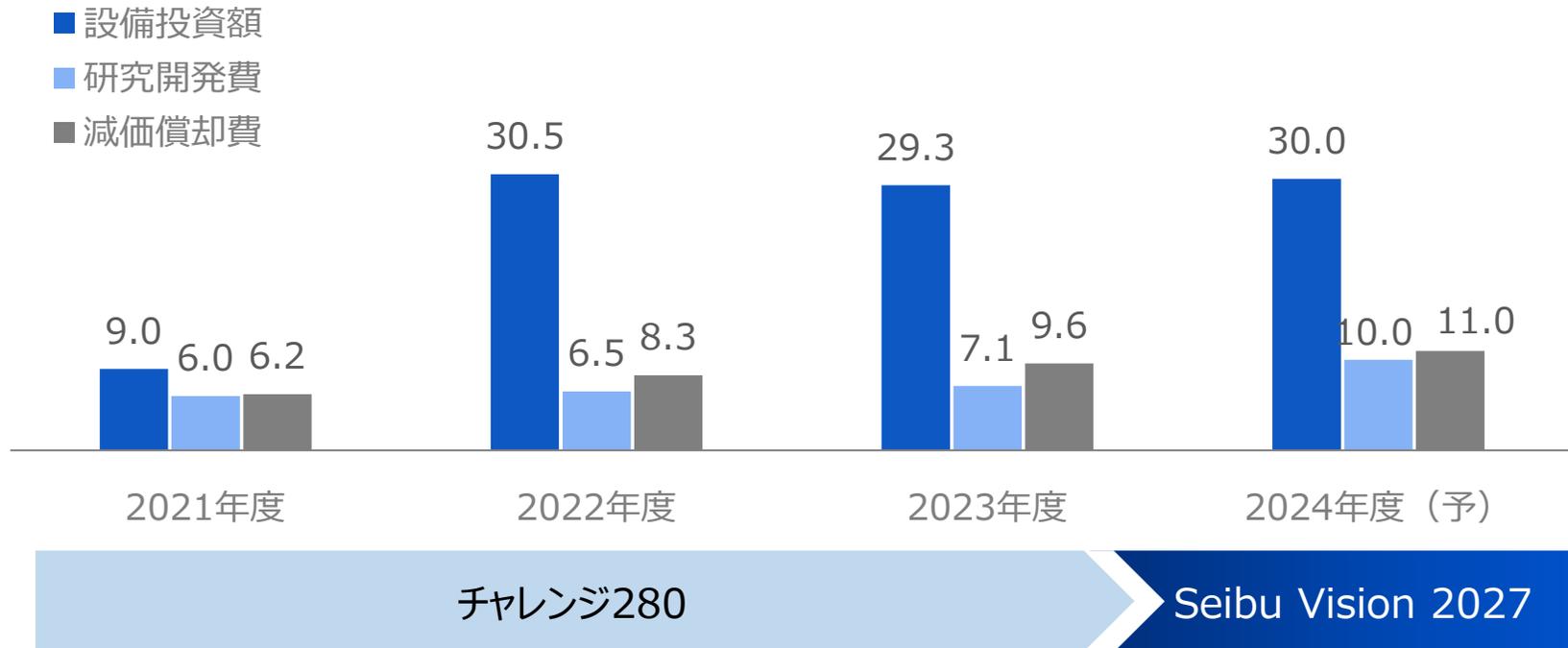
- 価格転嫁による採算の適正化
- 品質、保守、技術サポートの充実、販売店強化確立
- ASEAN、北米、欧州への展開強化
- 中華圏向け売上・利益の維持
- 成長産業（EV、半導体、レンズ、医療、電池、航空宇宙分野）のニーズに応じたソリューション開発

ワイヤ放電加工機
HP/UPシリーズの大型機



設備投資・研究開発費・減価償却費

(単位：億円)



- **設備投資額** 2022年度より進めていた新工場の建設が9月末に竣工
段階的に生産設備の老朽化更新と増設を計画
- **研究開発費** 市場や顧客にターゲットを絞った研究開発や中長期を見据えた開発計画の推進
- **減価償却費** 新工場の竣工や生産設備、ERPの更新など積極的な設備投資に伴い増加の見込み

株主還元

2024年度は配当政策の変更（配当性向→DOE）により、84円を予定
 なお、2024年度中間配当は、42円とする

2023年度までの配当政策

安定的な配当を継続して行うことを基本方針

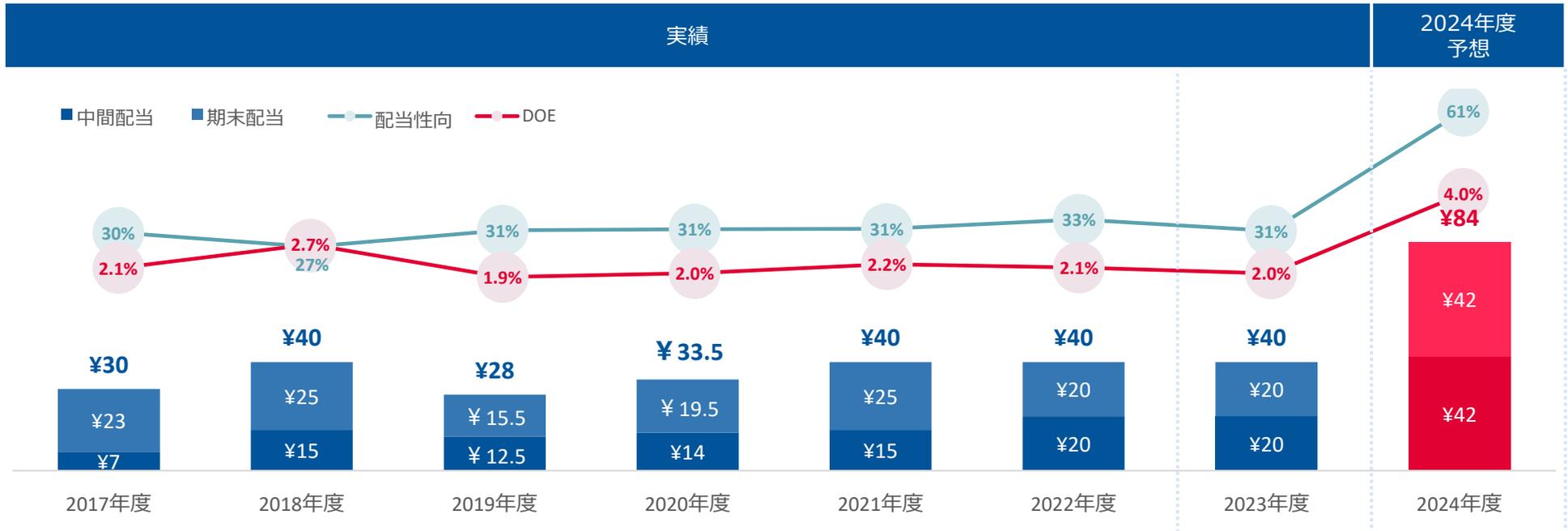
配当性向 **30%** を目標



2024年度以降の配当政策

安定的な配当を継続して行うことを基本方針

DOE*1 (連結純資産配当率) **4.0%** を目安



*1. 連結純資産配当率 = 1株あたり配当金 / 期末1株あたり連結純資産

新中期経営計画 (Seibu Vision 2027) の概要



Seibu Vision 2027の位置付け

Seibu Vision 2027

「未来を輝かせ卓越の技術で人とつながる」

大事なことは社会を輝かせる価値を創造し続ける会社であること
 収益性・財務健全性に加え、成長性・株主資本効率に重きを置いた経営へ転換し、
 創業100周年後の未来を見据え、新しい事業に挑戦し、広く世界に貢献する

持続可能な社会、環境の構築に
 貢献し、社会的価値の創出と
 経済的価値の創出を実現する、
 グローバル・ニッチ企業を目指す

チャレンジ240

- 標準化とコスト低減と共に、品質改善による商品力アップ
- 技術開発のスピードを上げ新商品を創出
- 中国・東南アジア地区への拡販

チャレンジ280

- 海外需要対応機種の開発、現地法人との協力
- 加工センタの生産能力増強
- 戦略的なサステナビリティの推進

Seibu Vision 2027

- 成長性・株主資本効率に重きを置いた経営への転換
- PBRの向上、企業価値・株式価値の増大
- 「人財」を重要視した経営基盤の強化

2027

100th
anniversary

2024

2024年
ワイヤ放電加工機生産工場を新設
(9月末竣工)



2018

2021年
トランシブカートローダを開発



2021

2022年
HP/UPシリーズ
4機種を開発



2023年
Semflex® -VMM-Zを開発



Seibu Vision 2027の目標

GOAL /

Seibu Vision 2027

400億円
売上高

52億円
営業利益

13%
営業利益率

10%
ROE

売上高 (億円)

営業利益/営業利益率 (億円/%)

ROE (%)



ご参考



新精密工場兼事務所棟竣工

精密機械事業の需要増大に対応する 新精密工場兼事務所棟が2024年9月末竣工

- 中国やA S E A N諸国におけるスマートフォンや電子部品、電気自動車関連の生産増や半導体市場の成長に伴い、ワイヤ放電加工機に対する需要も高い水準で推移
- 高まる製品需要に対して、品質や納期面においても、お客さまが求めているサービス内容に的確に対応することで、事業の競争力強化を図る
- 製造プロセスのデジタル化や無人搬送機などの導入により、生産能力は1.5倍に向上
- 設備の高効率化によるCO2排出量の低減に加え、太陽光発電によるグリーンエネルギーを導入



新精密工場兼事務所棟の概要

- (1) 名称 : 新精密工場兼事務所棟
- (2) 所在地 : 福岡県古賀市駅東三丁目3番1号
(本社工場敷地内)
- (3) 構造 : 鉄骨造 (準耐火構造)
- (4) 規模 : 地上3階
延床面積 11,707.21㎡ (3,548坪)
建築面積 6,209.12㎡ (1,882坪)

2024年4月、株式会社兼松KGKとの共同出資により、 Seibu America Corporationを米国に設立

Seibu America Corporation設立の目的

- 米国でのワイヤ放電加工機の市場は主に自動車、医療、航空宇宙、エレクトロニクス、金型製造が主流となっており、特に医療、航空宇宙系は今後更に成長が見込まれる
- 更なる業績の拡大と共に事業ポートフォリオを形成すべく、米国内での「Seibu」ブランド価値向上を目指し、兼松K G Kと合併会社を設立
- 北米地区での顧客満足度の維持・向上およびサービス体制に対する安心感の提供を目的とした戦略を推進し、当社グループの北米地区における更なる成長を図る

合併会社の概要

- (1) 名 称 : Seibu America Corporation
- (2) 所在地 : 1550 Louis Ave. Elk Grove Village, IL 60007 U.S.A.
- (3) 事業内容 : 北米地区（カナダ・メキシコを含む）において、
工作機械、産業機械、搬送機械の販売及び関連サービスの提供
- (4) 資 本 金 : US3百万ドル
- (5) 出資比率 : 兼松KGK51%、西部電機49%



本資料における将来の予想等に関する各数値は、現時点で入手可能な情報に基づく当社の判断や仮定によるものであり、リスク及び不確実性が含まれております。したがって実際の業績等は、予想数値と異なる結果となる場合があります。

超精密とメカトロメーション®を追求する

Seibu

西部電機株式会社

東証スタンダード・福証（証券コード：6144）

〈お問い合わせ先〉 経営企画部

TEL：092-941-1500

FAX：092-941-1511

<https://www.seibudenki.co.jp/ir/>